R6.1.16
神奈川新聞

ダイヤ工夫し存続へ

神奈川

厚木のコミュニティー交通

本格運行3年 高齢者らの外出支え

厚木市北部に位置する鳶尾、まつかげ台、みはる野地域で2023年度までの予定で運行しているコミュニティー交通「ココモ」を巡り、市は今月からダイヤやルートを利用しやすく変更した上で継続することを決めた。本格運行から約3年、年を追うごとに利用者が増え、高齢者からは「これがないと買い物に行けない」などと生活の足として欠かせないとする声が上がる。

（石本　健二）

3地域は市中心部の小田急線本厚木駅から8～10キロ離れた国道412号東側の住宅地で、計約5千世帯。国道沿いにスーパーやドラッグストア、コンビニなどがあり、住宅地からの往路は下り坂だが、復路の上り坂を商品を持って歩くのは高齢者に大きな負担となっている。

市は住民らの利便性を高めようと、住宅地と国道沿いの商業施設などを結ぶコミュニティー交通を18年度に運賃無料で実験的に導入。翌19年度に有料とした上で、21年3月から23年度までの予定で運行を続けてきた。

現在は鳶尾ルート（月、金曜）と、まつかげ台・みはる野ルート（火、木曜）をそれぞれ1日4便運行。乗降は、地域住民による管理団体「コミュニティ交通運営協議会」（岩崎正昭会長）がサポートする。

料金は100円で、両ルートの1日当たりの平均利用者数は20年度は9・6人だったが、23年度は22・3人と年々増加。利用は午前が多いため、市はダイヤを早い時間帯中心に変え、一部のバス停を増やすなど利便性を高めた上で継続する。

運行継続が決まり、住民から歓迎の声が上がる。スーパー「フレサ上荻野店」（同市上荻野）から乗車した80代女性は「毎週、買い物と病院で利用する。乗り合わせた人とのおしゃべりが楽しい」。90代女性は「これがないとスーパーに行けない。なかったら路線バスで本厚木駅近くまで出て、買った物は宅配便で送らないとならない」と話していた。

市が負担する運行委託料約900万円に対して、運賃収入は40万円前後とわずかだが、市都市計画課では「市中心部から離れた住宅地の足を維持し、利便性を高めることがまちの存続につながる。高齢者の外出の促進、おしゃべりを通じたコミュニティーづくりなど副次的効果もあり、運行を続けたい」と話している。

運行継続が決まったコミュニティー交通「ココモ」。買い物など高齢者の欠かせない足になっている
＝厚木市上荻野のスーパー「フレサ上荻野店」